ふるさとの誇り 151

博レポート

ふるさとを想う心
～野呂瀬主税助の生涯～

寛永 17 年（1640）主税助が安養寺に奉納した「鼻採地蔵縁起」。これにより私たちは、地域に残る鼻採地蔵の伝説と、この当時の「十日市」の様子を知ることができる。背面は、主税助があつく信仰した安養寺の地蔵菩薩像（鼻採地蔵、市神地蔵とも　市指定文化財）

主税助の位牌。慶安２年６月 11 日没。没年の下には所生当地（十日市場）、その左には尾州（尾張）住と記されている（安養寺蔵）

今回は、先月号の本欄で紹介した「板絵著色三十六歌仙図」を奉納した尾張藩士、野呂瀬主税助の生涯にスポットをあてます。

野呂瀬氏は、もともとは甲斐源氏、大井氏の流れをくむといわれ、現在の若草地区十日市場から甲西地区鮎沢あたりを拠点に武田家に仕えました。武田家滅亡後は徳川家に仕え、少なくとも関ヶ原の戦い以降は、甲斐に入った家康の重臣、平岩親吉に従いました。実際、親吉のもと、代官頭の大久保長安が主導して行われた慶長の検地では、主税助の父と考えられる源左衛門の名が、検地役人として巨摩郡北山筋の検地帳にのこされています。

その後甲斐が、家康の九男で、のちに尾張徳川家をおこす徳川義直の所領となっても親吉は甲府に留まり、城代として治めていましたが、慶長十二年（一六〇七）、義直が尾張藩主に転ずると、親吉も義直の附家老、犬山城主として尾張へ移ることになり、この時、主税助たちも、親吉に従って故郷を離れることになったのです。

その後の主税助の足取りを、尾張藩の記録である『藩士名寄』から読み解くと、主税助は、親吉の死後徳川義直に仕え、大阪冬の陣、夏の陣に参戦、その後義直から知行二百石（のちに三百石）を安堵されています。また役職としては、尾張藩初代の勘定奉行兼材木奉行に任じられ、隠居後、慶安二年（一六四九）、病により七十九年の生涯を閉じています。なお、そこには、「主税助初而、御城下主税筋二住居仕候。右之由緒を以、已後其地を主税筋と称申候」とあります。現在も残る名古屋市東区「主税町」の町名が、彼が初めてここに居を構えたことに因むことがわかり、現在の南アルプス市と名古屋市の意外なつながりを知ることができます。

ところで、甲斐を離れた後も主税助は、様々なものを故郷に送っています。現在残されているものでは、元和五年（一六一九）に十日市場の安養寺に奉納された「掛絵六地蔵菩薩像」、寛永十七年（一六四〇）に同じく安養寺に奉納された「鼻採地蔵縁起」、また同年に先月紹介した浅間神社の「板絵著色三十六歌仙図」。おそらく、これら寺社の大檀越（支援者）として、生涯ふるさととのつながりは切れることがなかったのでしょう。

とくに「三十六歌仙図」や「縁起」は、主税助が七十歳を迎えた晩年、故郷を離れてから実に三十三年後に納められたものです。「縁起」に記される「我先祖より住侘し十日市場邑」、「（十日市場　安養寺の）はなとり地蔵菩薩は我等先祖よりの守なれは崇め申しても猶餘りある御事也」といった言葉から、私たちは、晩年の彼の郷愁を感じ取ることができます。

尾張藩の史料を見れば、藩には主税助以外にも、数多くの甲斐国出身者がいたことがうかがえます。同時期に故郷甲斐の地を離れたであろう彼らにも、おそらくそれぞれの人生があり、それぞれのドラマがあり、またそれぞれの故郷への思いがあったはずです。当時の、二度と踏むことがないであろう、故郷の地を想った彼らの、その人生に思いを馳せるとき、今自らがふるさとに生きることができる幸せを噛みしめるとともに、心ならずも故郷を離れた人々がいつまでも誇れるような、郷愁を持ち続けられるような郷土を守っていくことが、現在ここに生きる我々のつとめなのだという想いを新たにしたいと思います。　文／写真　文化財課

元和５年（1619）主税助が安養寺に奉納した掛絵六地蔵菩薩像（市指定文化財）

寛永 17 年（1640）主税助が江原の浅間神社に奉納した板絵著色三十六歌仙図

慶長６年（1601）甲州北山筋志田今井村（甲斐市）の検地帳。野呂瀬源左衛門の名がみえる（県立博物館蔵）

今も残る「主税町」の町名と現在の街並み（名古屋市東区）

野呂瀬主税助関係年譜

年	西暦	年齢	事　　柄
元亀２	1571	1	主税助生誕（没年から逆算）
天正10	1582	12	武田家滅亡。野呂瀬家、徳川家に仕える
天正11	1583	13	祖父？勘之丞、相模国小田原三増の軍中において没
天正18	1590	20	小田原の陣　主税助、成瀬三右衛門隼人正正成に属し、小田原城笹曲輪において殊功をたてる
慶長６	1601	31	父源左衛門、大久保長安の下で北山筋の検地役人を務める
慶長12	1607	37	野呂瀬家、平岩親吉に従い尾張犬山へ移住
慶長16	1611	41	平岩親吉死去→徳川義直に仕える
慶長17頃	1612	42	「清洲越し（名古屋城築城に伴う清洲から名古屋への都市移転）」により、現在の主税町の場所に居を構える
慶長19	1614	44	大阪冬の陣。佐枝主馬の配下として冬・夏西陣に参加
慶長20	1615	45	大阪夏の陣　知行200石拝領。帰陣後、成瀬隼人正同心に属す
元和２	1616	46	父源左衛門没
元和５	1619	49	安養寺に「掛絵六地蔵菩薩像」奉納
元和６	1620	50	藩主徳川義直から黒印状（200石）を賜る。尾張藩初代の勘定奉行兼材木奉行を務める
元和９	1623	53	加増100石＝計300石
寛永17	1640	70	安養寺に「鼻採地蔵縁起」、江原浅間神社に「板絵著色三十六歌仙図」奉納
慶安２	1649	79	６月11日病死。79歳